

問題用紙は、試験監督員からの開始の指示があるまで一切開かないでください。

令和 7 年度

液化石油ガス設備士

法令試験問題

LX

試験時間 9:30 ～ 10:30

注 意 事 項

- (1) 配布された問題用紙の種類（左上に黒地白文字で示しています。）が受験する試験の種類に間違いがないか、また、問題用紙と受験番号札の色が合致しているかどうか、必ず確認してください。

万一、異なる場合は、速やかに試験監督員に申し出てください。

- (2) 答案用紙に記入されている受験番号、氏名等を確認し、間違いがあれば「受験者住所等修正票」を請求し、正しい内容を記入して試験監督員に提出してください。

- (3) この試験は電子計算機で採点しますので、答案用紙に記入する際には、記入方法を間違えないように特に注意してください。

電子計算機は、黒く塗りつぶした ● の部分を読み取ります。

- (4) 試験問題の解答は多肢選択式です。解答は、各問題の下に掲げてある(1)～(5)の中から、**最も適切なものを 1 問につき 1 個だけ選んでください**。1 問につき 2 個以上選択した場合には、その問題については 0 点になります。

- (5) 解答は、次の例にならって、答案用紙の所定の欄にマークしてください。

「記入例」

問 次のうち正しいものはどれか。

(1) A (2) B (3) C (4) D (5) E

(1) (2) (3) (4) (5)

(3)を選択する場合には、○ ○ ● ○ ○のように、○の枠いっぱいにはみ出さないようにHBまたはB鉛筆で黒く塗りつぶしてください。

- (6) 試験問題に関する質問にはお答えできません。

- (7) 問題中において特に記述のない場合、圧力はゲージ圧力で表しています。

- (8) 特に記述のない場合、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（以下「液化石油ガス法」という。）およびその政省令に基づいて答えてください。

- (9) 「問題用紙」および「答案用紙」は、試験監督員の指示に従い必ず提出してください。

設備士(法)LX

この試験は、次による。

- (1) 令和7年4月1日現在施行されている法令に基づき出題している。
 - (2) 経済産業大臣が危険のおそれがないと認めた場合等における規定は適用しない。
-

問1 次のイ、ロ、ハの記述のうち、液化石油ガス法に係る法令上正しいものはどれか。

イ．液化石油ガス法は、一般消費者等に対する液化石油ガスの販売、液化石油ガス器具等の製造及び販売等を規制することにより、液化石油ガスによる災害を防止するとともに液化石油ガスの取引を適正にし、もって公共の福祉を増進することを目的としている。

ロ．鉄道車両内の厨房において、液化石油ガスを飲食物の調理のための燃料として業務の用に供する者は、「一般消費者等」に含まれる。

ハ．「供給設備」とは、液化石油ガス販売事業の用に供する液化石油ガスの供給のための設備(船舶内のものを除く。)及びその附属設備であって定められたものをいい、貯蔵設備の障壁はその一つである。

- (1) ロ (2) ハ (3) イ、ロ (4) イ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問2 次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が1000キログラム未満である容器(バルク容器を除く。)による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．充てん容器は、常に温度40度以下に保つことと定められている。また、残ガス容器についても、この規定が適用される。

ロ．内容積が47リットルの充てん容器は、その容器を置く位置から2メートル以内の火気をさえぎる措置を講じれば、屋内に置くことができる。

ハ．充てん容器等(当該容器に取り付けたスカートを含む。)には、湿気、水滴等による腐しよくを防止する措置を講ずることと定められているが、この基準が適用されるものは、内容積20リットル以上の充てん容器等に限られている。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) ロ、ハ

問3 次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が1000キログラムである容器（バルク容器を除く。）による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．気化装置は、直火で直接液化石油ガスを加熱する構造のものでなければならない。

ロ．充てん容器と調整器を接続する管にあつては、接続された状態で所定以上の力で行う引張試験に合格するものでなければならない。

ハ．供給設備に設置されたバルブ、集合装置、気化装置及び供給管のうち、漏えい試験に合格するものでなければならないものは、バルブ、集合装置及び供給管である。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) ロ、ハ

問4 次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が950キログラムのバルク貯槽による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．バルク貯槽の基礎は、平坦なコンクリート盤等による水平、かつ、地盤面と同一高さのものとし、かつ、不同沈下等によりバルク貯槽に有害なひずみが生じないようなものとしなければならない。

ロ．バルク貯槽は、その外面から2メートル以内にある火気をさえぎる措置を講じ、かつ、屋外に置かなければならない。

ハ．所定の方法により、バルク貯槽と調整器の間に液状の液化石油ガスが滞留しにくい措置を講じなければならない。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問5 次のイ、ロ、ハの記述のうち、地盤面下に埋設した貯蔵能力が950キログラムのバルク貯槽による供給設備の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ．バルク貯槽の頂部の位置は、地盤面から30センチメートル下にした。

ロ．バルク貯槽の水平投影面の四隅のうち二箇所に、埋設後の貯槽の位置を示すための標識杭を設置した。

ハ．バルク貯槽を埋設するために、掘削して発生した土に石塊等がないことを確認したうえで、その土を埋め戻しに使用した。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) イ、ハ

問6 次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定供給設備の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ. 貯蔵設備がバルク貯槽であって、その貯蔵能力が 1000 キログラムのものに、消火設備を設けた。

ロ. 貯蔵設備がバルク貯槽であって、その貯蔵能力が 3000 キログラムのものを、その外面から火気(そのバルク貯槽に附属する気化装置内のものを除く。)を取り扱う施設に対して 5 メートルの距離を有して設置した。

ハ. 容器による貯蔵設備であって、その貯蔵能力が 5000 キログラムである貯蔵設備の屋根を、漏えいした液化石油ガスの爆発による衝撃に耐えられる堅固なものとした。

- (1) イ (2) イ、ロ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問7 次のイ、ロ、ハのうち、保安業務区分として定められているものはどれか。

イ. 周知

ロ. 保安検査

ハ. 気密試験

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) イ、ロ、ハ

問8 次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備(質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。)の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ. 配管、ガス栓及び末端ガス栓と燃焼器の間の管は、使用上支障のある腐しよく、割れ等の欠陥がないものでなければならない。

ロ. 屋内に設置される配管には、腐しよくを防止する措置を講じなくてもよい。

ハ. ガスメーターと燃焼器の間の配管その他の設備は、燃焼器の入口における液化石油ガスの圧力を、生活の用に供する液化石油ガスに係るものにあつては、2.0 キロパスカル以上 3.3 キロパスカル以下に保持するものでなければならない。

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問9 次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備(質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。)の技術上の基準について正しいものはどれか。

- イ. 配管は、地くずれ、山くずれ、地盤の不同沈下等のおそれのある場所又は建物の基礎面下に設置してはならない。
- ロ. 屋内に設置する自然排気式の高圧ガスバーナー付きふろがま(密閉式のものを除く。)の排気筒(排気扇が接続されているものを除く。)の高さは、定められた式により算出した値未満の高さとしなければならない。
- ハ. 末端ガス栓と燃焼器とを接続する場合には、所定の燃焼器の区分に応じ、所定の方法により接続しなければならない。

- (1) ロ (2) ハ (3) イ、ロ (4) イ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問10 次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備(質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。)の技術上の基準について正しいものはどれか。

- イ. 密閉式でないガスふろがまを屋内に設置するとき、燃焼器出口の排気ガスの温度が100度を超える場合は、そのガスふろがまに接続して設けた排気筒の天井裏にある部分は金属で覆われていなければならない。
- ロ. 液化石油ガスの消費量が15キロワットのガス瞬間湯沸器(屋内に設置するものに限り、密閉式のものを除く。)であって、排気筒が設けられているものは、その排気筒の有効断面積以上の有効断面積を有する給気口その他給気上有効な開口部が設けられた室に設置されていなければならない。
- ハ. 配管には、その配管の修理又は取り外しが終了したときは、その配管から液化石油ガスの漏えいのないことを確認するための措置を講じなければならない。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問11 次のイ、ロ、ハの供給設備又は消費設備の設置又は変更の工事に係る作業のうち、液化石油ガス設備士でなければ従事してはならないものはどれか。

- イ. 供給設備を修理するにあたって、硬質管を取り外すために硬質管を切断する作業
- ロ. 硬質管のねじ切り作業を行うために、硬質管の寸法取りを行う作業
- ハ. 同一型式のガス栓を交換するために、硬質管からそのガス栓を取り外す作業

- (1) イ (2) ハ (3) イ、ロ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問 12 次のイ、ロ、ハの液化石油ガス設備工事のうち、その設備工事を行った者が、遅滞なく、その旨をその設備工事を行った施設又は建築物の所在地を管轄する都道府県知事(指定都市の区域内にあっては、指定都市の長)に届け出なければならないものはどれか。

- イ．図書館の暖房のための燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その貯蔵能力が 400 キログラムである貯蔵設備の設置の工事
- ロ．ホテルの暖房の燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その貯蔵能力が 900 キログラムである貯蔵設備の位置の変更の工事
- ハ．料理飲食店の厨房の燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その貯蔵能力が 800 キログラムである設備の調理用燃焼器の増加に伴う消費設備の配管の延長の工事

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問 13 次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定液化石油ガス設備工事及び特定液化石油ガス設備工事事業者に ついて正しいものはどれか。

- イ．同一型式のガスメーターの交換をする際、そのガスメーターと硬質管の接続に係る工事は、特定液化石油ガス設備工事に該当する。
- ロ．特定液化石油ガス設備工事事業者は、特定液化石油ガス設備工事に係る記録及び配管図面の内容を電磁的方法により記録することにより作成し、保存してはならない。
- ハ．特定液化石油ガス設備工事事業者は、事業所ごとに、自記圧力計を備えなければならない。

- (1) イ (2) ハ (3) イ、ロ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問 14 次のイ、ロ、ハの記述のうち、液化石油ガス設備士について正しいものはどれか。

- イ．液化石油ガス設備士試験に合格すれば、その試験に係る免状の交付を受けていない者であっても、実地に他の液化石油ガス設備士から監督を受けて、液化石油ガス設備工事の作業のうち気密試験の作業を行うことができる。
- ロ．液化石油ガス設備士は、経済産業大臣が特に定めた場合を除き、免状の交付を受けた日の属する年度の翌年度の開始の日から 5 年ごとに液化石油ガス設備工事に係る災害の発生防止に関する講習を受けなければならない。
- ハ．令和 7 年度の液化石油ガス設備士試験に合格して液化石油ガス設備士免状の交付を受けた者は、保安業務であるバルク供給設備の「容器交換時等供給設備点検」を行うことができる。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) イ、ハ

問 15 次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律に係る法令上正しいものはどれか。

イ．特定工事事業者は、屋内に設置してあるガス瞬間湯沸器(ガスの消費量が 12 キロワットを超えるもの)と接続する排気筒の位置の変更を伴う工事をしたときは、所定の表示を付さなくてもよい。

ロ．屋内に設置したガスバーナー付ふろがまの排気筒は、特定ガス消費機器である。

ハ．特定ガス消費機器設置工事監督者は、自ら特定工事を行うことなく実地に特定工事を監督するだけの場合は、ガス消費機器設置工事監督者の資格を証する書面を携帯していなくてもよい。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) ロ、ハ